

<対策のポイント>

スマート農業技術の開発が必ずしも十分でない品目や分野について、地場メーカーや農業者、大学、地域金融機関等と先端技術を有する研究機関・企業が連携して行う、地域のニーズと農業者目線に基づいた技術開発・改良を推進。

<政策目標>

技術開発が必ずしも十分でない品目や分野に対応したスマート農業技術を5以上開発。[令和7年まで]

<事業の内容>

<事業イメージ>

○ 開発が不十分な品目・分野のスマート農業技術の開発・改良

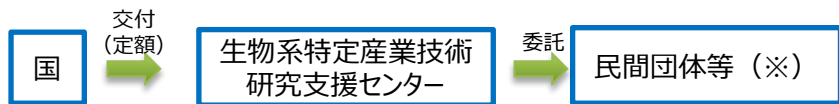
スマート農業技術の開発が必ずしも十分でない野菜・果樹等の品目や、家畜の飼養管理や排せつ物処理の高度化等の分野について、地場メーカーや農業者、大学、地域金融機関等と先端技術を有する研究機関・企業が連携して行う、地域のニーズに応じつつも汎用化が見込まれるスマート農業技術の開発・改良を推進します。

<想定される技術開発・改良の例>

- アタッチメントやプログラムの交換により、果菜類の栽培管理や収穫に共通して使える作業ロボットの開発とその利用に適した栽培体系の確立
- 様々な野菜・果樹等の収穫物の洗浄・切断等の調製工程において、汎用的に使えるハンドリングロボットの開発
- キャベツ自動収穫機を他の結球性葉菜類（レタス等）にも汎用的に使えるようにする改良
- 既存の管理機（定植、畝立・培土、資材散布等）をAIで制御することにより、作業精度・速度を飛躍的に高めるための改良

等

<事業の流れ>



※公設試・大学を含む。

開発が不十分な品目・分野のスマート農業技術の開発・改良



開発が不十分な品目・分野での
スマート農業技術の充実と社会実装の拡大